

数学

大阪市立大学[理系] (前期)

<全体分析>

試験時間	120	分	解答問題数	4	題
------	-----	---	-------	---	---

解答形式

全問記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

例年通り数学Ⅲの比重が高い。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

2は文系にほぼ同内容の問題がある。**3**では自然対数の近似値が与えられた。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	三角関数 積分法 微分法	数学Ⅱ 数学Ⅲ	和積公式 回転体の体積 関数の増減	標準
2	複素数平面 複素数と方程式	数学Ⅲ 数学Ⅱ	共役解 複素数の絶対値 解と係数の関係	標準
3	積分法	数学Ⅲ	分数の和の定積分による評価	やや難
4	空間ベクトル 微分法	数学B 数学Ⅲ	内積と垂直条件 関数の増減	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

昨年度よりも標準的な問題が増えた。とは言え例年通りの数学Ⅲを主体とした構成で、特に現役生には厳しい内容の試験と言えるだろう。**3**のようなやや難しいレベルの問題までしっかり経験を積んでおきたい。特に積分法や極限においては、式の構造を論理的に把握する力、関数の挙動を把握する力、さらには単純な計算力まですべての力が要求される。

数学Ⅲ以外の分野の問題も全範囲にわたって出題歴がある。特に、最近では出題されていないが一時期連続して出題された確率は要注意である。